

平成 29 年度第 1 回モトクロス委員会 議事録 ダイジェスト

開催日：2017年7月13日(木) 10時30分～17時30分

開催場所：MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

I 前回議事録の確認

2016年11月8日に開催された「平成28年度第2回モトクロス委員会」並びに平成29年2月28日に開催された「第3回モトクロス作業部会」議事録が提出され、確認された。

II 2017年度全日本開催状況・暫定シリーズランキング・ライセンス登録状況(中間報告)

① 2017年全日本モトクロス選手権開催状況報告

第4戦終了時点における開催状況(前年対比)が下記の通り報告された。

【観客数】97%、【参加者】IB:93%、IA1:102%、IA2:94%、レディース:89% ……全日本全体:93%

② 2017年全日本モトクロス選手権シリーズランキング中間報告

第4戦終了時点のランキング表が提出され、確認された。

③ ライセンス発行状況表が提出され、確認された。

A) 2016年度(17年3月末日締) ……モトクロスは前年対比100%であった。

B) 2017年度(2017年7月10日現在) ……モトクロスは前年同日比93%(7%減少)

【区分別】国内B級95%、国内A級83%、国際B級85%、国際A級88%

【地区別】北海道98%、東北98%、関東97%、中部89%、近畿89%、中国86%、四国97%、九州107%

III 2017年MXオブネーションズについて

2017年9月30日、10月1日にイギリスで開催されるモトクロス・オブ・ネーションズに関し、選考委員会における選考結果に対する辞退の連絡を受け、不参加とすることが決定された経緯について報告された。なお、本日付で正式に2017年度モトクロス・オブ・ネーションズへの参加見合わせについて発表することが確認された。

継続審議

選考委員会の百井座長より、「コンセプト・全日本の日程・選抜方法・資格等、出場することを前提として検討すべき」であり、来年以降に向けたモトクロス・オブ・ネーションズを考えるワーキンググループの開催が提案された。

(メンバーは正副委員長と事務局にて選任)ワーキンググループでまとめた草案を次回委員会に提案し、対応策の検討を進めていきたい。

IV 2018年度主要競技会日程調整

下記の通り、調整中の来季スケジュール(案)が報告された。※変更される可能性あり。

全日本モトクロス

4月8日 九州(HSR)

4月22日 関東(オフロードビレッジ)①案(4月15日②案)

5月13日 SUGO(トライアル世界選手権日程重複の為、日程変更)

5月27日 中国(グリーンパーク弘楽園)①案(5月20日②案)

7月1日 北海道(会場未定)①案(6月24日②案)

7月15日 東北(藤沢)

8月26日 中国(グリーンパーク弘楽園)(施設/加盟団体共催)

9月9日 近畿(名阪スポーツランド)

10月21日 MFJGP(SUGO)(MotoGP日程次第で10月28日に変更の可能性)

モトクロス全国大会 8月5日 SUGO

- ※北海道大会は、会場を含め今後の調整次第であり、現時点で仮に予定を入れた。
- ※関東大会は4月開催のみとなる予定であることが報告された。
- ※中国大会は2戦開催することが要望された。
- ※全日本 RD と日程が重複している大会に対し、極力避けてほしいとの要望がなされた。
(九州、関東、7/1 の場合の北海道 ※7/13 時点)

V 2017 年 MX 施策（中間報告）

1. 2017 モトクロス運営統一セミナーの開催
2017 年 3 月 4 日に SUGO にて初めて開催された。
受講者 34 名（北海道:5 名、東北/SUGO:21 名、関東:5 名/近畿:3 名）

継続審議

今回の日程・会場・講習内容について、ワーキンググループを開催し草案をまとめ次回委員会へ提出する。

2. レースアドバイザー制度の導入
モトクロス委員会決定に基づき、本年度全日本第2戦から新たにレースアドバイザー制度を導入し、元国際 A 級ワークスライダーの候補者の中から選任された熱田高輝氏と榎本正則氏が全戦をまわり、競技会の円滑な運営、安全性の向上、違反行為の判定等に従事している。

決定事項

- ・ より円滑なアドバイザー業務の遂行のため、無線機の購入が提案され、審議の上、レースアドバイザー経費(4メーカー+MFJ 按分化)内で購入することが了承された。
- ・ 各大会の開催 Week 金曜に行われるコースチェックを円滑に行う為、査察マニュアルを来年に向けて作成する。(レースアドバイザー・MFJ 事務局)
- ・ 来年におけるレースアドバイザー制度の継続
- ・ 国際 A 級クラスに対する走行前講習の実施(第 6 戦 SUGO から実施を検討)

継続審議

来年以降のレースアドバイザーの経費(捻出方法)ならびに査察マニュアルの作成について、ワーキンググループを開催し草案をまとめ次回委員会へ提出する。

3. 動画記録システム中間報告
安全対策として、第 2 戦関東大会でテスト導入された動画記録システムについて、そのテスト検証結果が事務局より報告された。なお、マズプロ電工(株)より、第 3 戦以降 2017 年最終戦までの機材無償提供をご承諾頂けたことも併せて報告された。

今後の課題

- ・ 機材無償貸与の継続と条件が調整できるか。
- ・ 専属スタッフ(現地でのとりまわし)の選任ができるか。
- ・ 動画記録システムにかかる経費をどのように捻出するか。
- ・ 撮影した動画の取り扱い(保存方法・期間、利用方法)をどう規制するか。

継続審議

動画記録システムの今後の課題について、ワーキンググループを開催し草案をまとめ次回委員会へ提出する。

4. 全日本モトクロス選手権シリーズ運営方法の統一 (2018 年より)
全日本モトクロス選手権シリーズにおける計測システム及びオペレーター、エントリー窓口は、モトクロス委員会が示す方法で統一されることが報告され、承認された。
全戦統一した前提で、年間エントリーや年間パス制度などを並行して導入を検討したい。

継続審議

全日本モトクロス選手権シリーズ運営方法の統一(2018年より)について、ワーキンググループを開催し草案をまとめ次回委員会へ提出する。

5. 国際 A ライセンスの活用

モトクロス国際 A 級ライセンスホルダーに、講習会インストラクターや競技役員として活躍をする機会を与えたい。

継続審議

保険適用の観点なども考慮しなければならず、継続的に調査を行う。

VI 2018 年国内競技規則改訂案

1. イエローフラッグ、ホワイトフラッグ規則の解釈と運用の見直しについて

- 現状では、イエローを提示する場所が転倒箇所ではないケースもあり、実情とあわせるため、イエロー振動箇所から事故現場までは追い越し禁止とする。

決定事項

モトクロス競技規則 4 レース中の公式シグナル(合図) 232 頁

① 「転倒、事故発生場所 又は事故発生場所の直前フラッグポスト を示す」に改訂

シグナル	意味
赤旗	レース時全員走行停止・スタート時、フライングのためスタートやり直し
黒旗と黒地に白文字でゼッケンを記したボード	サインボードで示された番号の競技車両は速やかにピットインする。
黄旗	速度を大幅に減速、停止準備、追い越し禁止、大幅に減速してジャンプを通過すること
	静止 この先、転倒または事故現場がある
	振動 転倒、事故発生現場を示す
※静止提示～振動～転倒・事故発生場所を通過した区間までを適用範囲とする。	
青旗(振動)	警告、ラップされようとしている
緑旗	レーススタート時におけるコースクリアを示すため、およびエンジン始動の合図に使用される場合がある。
チェッカー旗(白黒)	レース終了
白旗	コース内で救護活動が行なわれている。救急車等が介入している。

② 静止(ゴールラインで提示) : コース内のどこかで救護活動が行われている。「振動(救護現場) : 救護活動現場を示す。

黄旗とともに白旗を振動させて、後続者に知らせる。 ※白旗振動が提示されている場所(救護活動現場)付近では細心の注意を払い直ぐ停止できる速度まで減速して通過すること。

救護員が危険にさらされると判断される様な速度で通過した場合は、そのライダーに罰則が与えられる場合がある」に改訂。

③ 「黄旗振動場所を過ぎても、転倒及び事故発生場所を過ぎるまでは、速度を大幅に減速して、いつでも停止できる状態で走行しなければならず、追い越しは禁止される。」を追加

④ 「4-1-1 レース中の公式シグナルの違反は、罰則が与えられる。罰則の決定は大会審査委員会が違反の内容により裁量を決定する。」を追加

⑤ イエローが事故現場脇で提示され、直近で救護活動を行っている場合もある為、白旗振動箇所も追い越し禁止とする。

2. 分解検査費用算出方法について

抗議による車両分解検査が行われる場合の分解費用について、その費用が明確ではなく、その作業内容によって費用を提示すべきとの提案が出され、審議された。

※以下分解範囲、金額はあくまで例であり、不足な項目が無いのか? 適正な工賃がいくらか? を検討したい。

(例)	2 ストローク	4 ストローク
エンジンヘッド回り	1 万円	2 万円
エンジン腰上(シリンダーより上)	1 万 5 千円	3 万円
全バラ	3 万円	5 万円

継続審議

モトクロス委員会では、分解項目と工賃を規則書に明記する点については承認された。
技術委員会において、適正な分解項目と工賃について調査を依頼し、審議・決定する。

3. 音量測定について

FIM 規則との整合性を図るため、2018 年より、下記の通り規則改定を行う。

決定事項 (7/20 技術委員会承認済)

5-3-3-5 計測中の車両の周囲5mの音量は 90dB/A 以下であること

5-3-6-1 公認競技会で開催されるクラスの音量規制値は最大で 114dB/A 以下とする。

※騒音計許容誤差+2dB/A を含める

継続審議

音量測定方法の簡素化対策について提案された。

(案)第 1 戦は予選前に全車測定を行う。

- IA1 と IA2 を交互に行う。
- 第 2 戦以降は各クラスより無作為に抽出し測定する。(台数・対象選手の抽出方法は要検討)

※第 1 戦は、IA1・IA2・IBOPEN・LMX の予選通過者ならびにリザーブ対象者を全車測定し、第 2 戦以降は、台数を絞る方法を、ワーキンググループにて検討する。この提案は技術委員会にて承認を得ることを条件とする。

4. 国内モトクロス技術仕様におけるサスペンション調整について

体格に合わせたフロントフォーク・リヤサスペンションの調整は安定した走行に影響を与える役割を果たしており、(特に軽量な)ライダーの体格に合わせた調整と出来るよう提案がなされたが、現状通りとし、規則は改訂しないことが決定した。

5. チャイルドクロス(付則 18-2 50cc クラスの仕様について)技術規則変更

決定事項 (7/20 技術委員会承認済)

現在の参加者の状況と整合性を取り、2018 年より下記の通り改訂することが提案され、承認された。

4-14 チェンジペダル、ブレーキペダル

4-14-1 チェンジペダル、ブレーキペダルは変更または改造が出来る。ただし、材質は公認車両と同じかまたは鉄でなければならない。

4-16 ブレーキレバー、クラッチレバー

4-16-1 ブレーキレバー及びクラッチレバーは変更出来る。ただし、材質は公認車両と同じかアルミニウムに限定される。

4-17 ドライブチェーン

4-17-1 ドライブチェーンは変更できる。ただし、チェーンサイズと材質は公認車両と同じでなければならない。

4-18 ドリブン(リヤ)スプロケット

4-18-1 ドリブン(リヤ)スプロケットは変更できる。ただし、ドリブン(リヤ)スプロケットの材質は鉄またはアルミニウムに限定され、公認車両のホイールに改造なしで取り付けられること。

VII その他

1. コース下見について

レディース選手会より、第2戦でレース間のインターバルにおけるライダーのコース下見が制限された件について、路面状況など走行前に確認しておくことで安全性の向上にもつながることから、下見を容認してほしいとの要望があり、第3戦以降暫定措置とされていた以下の対応を全戦で適用することが承認された。

競技開始前（公式練習開始前）、昼休み時間、競技終了後（最終クラスのレース終了後）のコースの下見は、可能です。

予選・決勝のインターバル（前レース終了後バックマーカーが通過してからタイムスケジュールに明記された次レース開始時刻までの間をさす）は、

本大会に出場しているライダーのみコースの下見は、可能とします。但し・・・

※ 如何なる場合でもマーカーまたはコース役員にコースからの退出を指示された場合は、速やかに退出して下さい。

※ コース内に入る者は、その他の者と判別ができるようにライセンス（バスケースに入れていつでも提示出来ること）と、主催者から与えられたリストバンド（またはクレデンシャル）を装着して下さい。

※ レース進行の妨げにならないように、十分ご注意ください。万一、競技進行に弊害が生じたとき主催者が判断した場合や資格の無い者がコースに入ったことが発覚した場合など、主催者の権限により、下見が禁止されることもあります。

2. レディースクラスのライセンス昇格について

レディースクラスにおいて世界選手権参戦を視野に入れたレース活動をしているライダーもおり、現行の昇格制度ではレディースクラス以外に参加しないと昇格できないため、変更提案が出されたが、現状通りとし、規則は改訂しないことが決定した。

3. グリッド整備について

スターティンググリッドの整備時、自身のグリッド以外の場所（空いているグリッドや土手等）から土を運び、自身のグリッドに入れ込み整地するライダー・ピットクルーに対して規制し、規則書に明記すべきではないか。

決定事項

自身のグリッド内に自身のグリッド外から土等を持ち込むことは禁止とし、詳細を公式通知に明記する。

スターティングエリア内に自分のスタートエリア外からの土等の搬入を禁止します。

自分で選んだスターティングエリア内を、道具を使用せずに地ならしはできます。

4. レースアドバイザーより、走行前講習にIAクラスの選手も含めるべきとの提案があった。

決定事項

第6戦 SUGO 大会よりIAも走行前講習の対象とする。ライダーズミーティングとの連動の都合上、IAとIBは合同で実施することとし、タイムスケジュールの変更を併せて検討する。

5. レースアドバイザーより下記意見が報告された。

- コース役員が黄旗を提示する場合、転倒が発生した方向に立ち、安全な進路を指示しながらフラッグを提示する方法を統一させるべき。オフィシャルミーティングにおいてレースアドバイザーからも伝達していきたい。
- コース設営時には、コースアウトしやすい箇所を極力なくし、ライダー側の目線で不可抗力の場合でもコース内を走行できる設定を考慮して頂きたい。（例えばクラッシュパッドや杭などを多めに使用したコースとの境目の表示等）
- 転倒が発生した場合、後続車への安全確保（進路を塞ぐ、狭める状況の回避）、及び黄旗の迅速な解除によって競技中の疑義が減少させられるメリットも考慮し、競技役員の介助の考えを見直して頂きたい。

6. MXing に投稿された意見が提出された。

以上